

事業所の概要表

(7 年 9 月 16 日現在)

事業所名	グループホームしいのみ					
法人名	特定非営利活動法人グループホームしいのみ					
所在地	愛媛県松山市緑町1丁目7番地15					
電話番号	089-932-7681					
FAX番号	同上					
HPアドレス	https://npo-shiinomi.com/					
開設年月日	H13 年 8 月 1 日					
建物構造	☒ 木造 ☐ 鉄骨 ☐ 鉄筋 ☐ 平屋 (2) 階建て (1.2) 階部分					
併設事業所の有無	☒ 無 ☒ 有 ()					
ユニット数	1 ユニット		利用定員数	6 人		
利用者人数	6 名		(男性 1 人 女性 5 人)			
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	1 名	要介護2	2 名
	要介護3	2 名	要介護4	1 名	要介護5	0 名
職員の勤続年数	1年未満	人	1～3年未満	人	3～5年未満	人
	5～10年未満	人	10年以上	人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 3 人			
	その他 ()					
看護職員の配置	☒ 無 ☐ 有 (☐ 直接雇用 ☐ 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	立命クリニック・千舟町クリニック					
看取りの体制 (開設時から)	☐ 無 ☒ 有 (看取り人数: 3～4 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	26,000 円	
敷金の有無	☒ 無 ☐ 有 円	
保証金の有無	☒ 無 ☐ 有 円 償却の有無 ☒ 無 ☐ 有	
食材料費	1日当たり 1,300 円	(朝食: 円 昼食: 円)
	おやつ: 円	(夕食: 円)
食事の提供方法	☒ 事業所で調理 ☐ 他施設等で調理 ☐ 外注(配食等) ☐ その他 ()	
その他の費用	・ 水道光熱費 18,000 円	・ 管理費 6,000 円
	・ 理美容代 2,000 円	
	・ おむつ代 実費 円	
	・ その他 実費 円	立て替え後請求書にて徴収

家族会の有無	☒ 無 ☐ 有 (開催回数: 回) ※過去1年間		
広報紙等の有無	☒ 無 ☐ 有 (発行回数: 回) ※過去1年間		
過去1年間の 運営推進会議の 状況	開催回数	6 回 ※過去1年間	
	参加メンバー ※□にチェック	☒ 市町担当者	☒ 地域包括支援センター職員 ☐ 評価機関関係者
		☐ 民生委員	☒ 自治会・町内会関係者 ☒ 近隣の住民
		☐ 利用者 ☐ 法人外他事業所職員 ☒ 家族等	
	☐ その他 ()		

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1)ケアマネジメント
- (2)日々の支援
- (3)生活環境づくり
- (4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和7年10月27日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	5	(依頼数)	6
地域アンケート	(回答数)	3		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870102195
事業所名	グループホームしいのみ
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏 名	村上光栄
自己評価作成日	令和 7 年 9 月 1 日

【事業所理念】※事業所記入 「ゴソゴソの自由」という理念は変わら ず、利用者様一人ひとりが自分のペ ースで生活していただけるよう、職員は、支 える側の一人として、この理念を忘れず 共有し、チームケアを行っていく。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 見直しや確認が十分でない部分もあったが、その一方で課題に対して、工夫して答えを導ける場面もあ、り少しずつ力が ついてきたと感じている。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 天気等をみて、ほぼ毎日、周辺や公園までの散歩を支援してい る。近くのコンビニや商店までおやつ等を買いに外に出かけている。ド ライブにもよく出かけており、利用者から希望があれば、その日に 出かけられるよう支援している。梅津寺公園が人気のようだ。季節 の花を見に出かけたり、出先でおやつを食べるなどして楽しん でいる。 自宅で猫を飼っていた利用者や猫が好きな利用者が多く、猫の鳴 き声があると、探しに行ったり、近所の公園にいる地域猫に会いに 行ったりすることを支援している。 「映画鑑賞」と名付けて、YouTubeやDVDで時代劇等を鑑賞する機 会を設けている。歌手のコンサートを鑑賞するには、大きな声で 歌って楽しんでいる。
---	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目 №	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	利用者様さんがしたいや、やりたいと思うことはできるだけやれるようにしてる。	○		○	入居時に、本人、家族から意向や要望について聞き取りを行い、センター方式の私の姿と気持ちシートを作成している。利用者の言葉をそのまま記入していた。その後得た情報は、必要に応じて追記している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	本人の自尊心を尊重し、共感的に接するようにしてる。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時の時などに話し合っている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	日頃の記録を見て共有している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	アンコンシャスバイアスを自覚し相手の意見を最後まで聞くようにしている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	家族様さんの面会時に聞くようにしている。			◎	入居時、本人や家族に以前ののことを聞き、介護要約(基本情報)シートとセンター方式(基本情報シート、私の生活史シート、私の家族シート)の様式にまとめている。以前の担当ケアマネジャーや知り合いから情報を得るケースもある。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日常生活の行動や言動を気にして努めている。				
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に務めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	個人で気づいたことを他スタッフに話共有している。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族様・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	会議やミーティングで検討している。			○	本人、家族などから事前に意見等を聞いておき、月例会議(ケアカンファレンス含む)時に、職員の情報を持ち寄って検討している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	同上				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	会議やミーティングで確認しあって反映させている。				月例会議の内容をもとにして介護計画を作成している。要望を手紙にしてくれる利用者があり、個別ケース記録に貼って共有し、内容によっては、介護計画に反映している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	同上	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	ケアプランなど作成しサポートしている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	同上				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	会議とかで話し合って共有している。			△	一つのパイルに全員分の個別ケース記録を綴じ、仕切り板に介護計画を貼って共有しているが、職員が計画内容について把握や理解をしているかどうかは不確かな面があるようだ。 △ 個別ケース記録は、計画に沿って支援した内容を記録することになっているが、記入量は少ない。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	同上				

グループホームしいのみ

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	月例会議で意見見直しする。			◎	計画作成担当者が、責任を持って期間を管理しており、3～6か月ごとの見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	同上			○	月例会議時に職員で情報を持ち寄り、支援状況を話し合いモニタリングを行ってサービス実施状況報告書を作成している
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	その時その時話し合いしている。			○	この一年間では、活動量が低下した利用者の計画を見直し事例がある。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	会議やミーティングで話し合っている。			◎	毎月、月例会議を行い、会議録を作成している。緊急案件がある場合は、その日の勤務職員で話し合い、決まったことは、申し送りノートに記入したり、SNSの職員のグループで共有したりしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	特定の人だけでなく、出席者全員発言しやすくしている。				勤務表作成時に、翌月の月例会議の日を決めている。
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	会議で話し合ったことを記録し、回覧し、見てもらっている。			◎	参加・不参加にかかわらず、全職員が、議事録を確認してサインするしきみをつくっている。サインがない職員には、管理者が個別に声をかけ確認を促している。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りノートなど回し、見たらサインしてもらっている。	○		◎	出勤時、申し送りノートと業務日誌(支援に関すること、家族とのやり取り、業務連絡等を記入)を必ず確認してから勤務に入ることになっている。内容を確認した職員は、サインをするしきみをつくっている。
(2) 日々の支援									
9	利用者様一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	個々のやりたいことを寄り添ってできるようにしている。				おやつや飲み物は、複数用意して選べるようにしている。 散歩の道順、ドライブの行き先、過ごし方等、その都度選んでもらうよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらしている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	声かけなどして選びやすいようにしている。			◎	散歩の途中にある自動販売機で飲み物を買う利用者には、好きなものを選んで買えるよう支援している。更衣時には、着替える服を自分で選ぶ場面をつくらしている。選ぶことが難しい利用者には「どっちにする?」と二者択一で聞くようにしている。
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	本人の意見を尊重し支援している。				自宅で猫を飼っていた利用者や猫が好きな利用者が多く、猫の鳴き声がすると、探しに行ったり、近所の公園にいる地域猫に会いに行ったりすることを支援している。
		d	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	◎	同上			◎	「映画鑑賞」と名付けて、YouTubeやDVDで時代劇等を鑑賞する機会を設けている。歌手のコンサートを鑑賞する際には、大きな声で歌って楽しんでいる。
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	本人の行動表情をよく見ている。				屋食後、利用者がテーブルを拭いてくれた時、職員は、「ありがとう」とお礼を言っていた。
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	△	勉強会を行ったり、気になることは、注意し合ったり、意識できるように心がけている。	○	○	○	職員は、e-ラーニングでの学習や運営推進会議時の「内部研修」で人権や尊厳について学んでいる。職員の言葉遣い等、気になるようなことがあれば、管理者が注意したり、職員同士で確認し合ったりしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	△	同上				調査訪問日、職員が利用者の耳元で「トイレいこう」と声かけをしている場面がみられた。
		c	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	同上			◎	職員は、事前に利用者に「○○さんお部屋入ってもいいですか」と聞いてから入室していた。
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	ノックして声かけて入るようにしてる。				事業所は、間取り上の制限があるため、入浴時の着替えやベランダへの出入り等の時に、利用者の居室を使用することがある。
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	生活の中でできることはしてもらえ環境をつくり、わからないことなどは教えてもらったりして助け合い生活している。				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者様同士の関係を理解し良い関係性ができよう心がけている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるよう支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等。)	◎	日常の中から利用者様同士の関係を観察、把握し良い関係性が保てるよう席決めたり、世話に入ったりしている。			○	仲の良い利用者同士で散歩やドライブに出かける機会をつくっている。 屋食後、食器を集め片づけてくれる利用者に「ありがとう」と他利用者が感謝を伝えていた。 トラブルになりそうな時には、職員が間に入って話を聞いたり、距離を持ったりできるよう支援している。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	自然な形でトラブルを防げるよう職員が間に入り、生活の支援をしている。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	居時にお話を聞くとともに、入居後も本人や家族様の会話の中で情報を得るようにしている。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしていた人々や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	知人や友人の面会はあるが、個人的な外出はご家族様同伴にしている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	ご本人や家族様から希望がある場合は個別で検討している。基本はホーム内で過ごしてもらい、天気の良い時は外に出かけたりしている。	○	◎	◎	天気等をみて、ほぼ毎日、周辺や公園までの散歩を支援している。近くのコンビニや商店までおやつ等を買いに出かけている。 ドライブにもよく出かけており、利用者から希望があれば、その日に出かけられるよう支援している。梅津寺公園が人気のようだ。季節の花を見に出かけたり、出先でおやつを食べるなどして楽しんでいる。重度の利用者も、体調を見ながら玄関先での外気浴を支援している。 調査当日はドライブを希望する利用者と職員とで行き先を決めて総合公園で開催されている松山市植木祭りに出かけていた。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	散歩に行くとき必ず出会う地域の方に気さくにお話していただき、家族様の人が定期的に外出に連れて行ってくれている。				

グループホームしいのみ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員は認知症について理解するなぜそうなのかを考えミーティングで話し合い改善に努めている。				「料理教室」と名付けて、利用者と一緒に料理をしたりおやつを作ったりする機会を持っている。ちらし寿司をつくる時には、利用者がうちわで仰いで、具材を混ぜてもらったりしている。歩行がおぼつかない利用者に、職員は、座席から手すりのある場所まで手引きし、その後は見守り、目的の場所までできるだけ自分の力で行けるよう支援していた。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	機能低下について学ぶ機会を都度設けている。生活リハビリを通して維持向上を図れるようにしている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者様の能力を把握し、個々のレベルに合わせ対応できるよう努めている。	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	面会や本人との会話など聞き、把握に努めている。				誕生日の当日に誕生会を行っており、本人の好きな食事(希望を聞く)を用意して祝っている。パースデーケーキは、誕生日の本人がデコレーションをしている。毎朝、化粧をする利用者があり、化粧品の購入時は、職員が付き添っている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	ここのレベルを把握し、自ら進んで取り組んでもらえるよう努めている。	○	△	○	
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	ひとりひとり身だしなみに気をつける				利用者は、季節に合った清潔な服装で過ごしていた。男性利用者には、電気シェーバーを使って自分で髭剃りをしてもらい、仕上げを職員が行っている。食事時には、テーブルの手の届くところにボックスティッシュを置いて、自分で口元などを拭けるようにしている。月例会議時には、身だしなみの支援について利用者個別に話し合っており、気を付けることを共有している。(寝ぐせや目ヤニ、重ね着等の支援)
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	一緒に買い物に行き生活用品を購入したりしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたリアドバイスを等本人の気持ちにそって支援している。	○	個人でケアしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	同上				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	整容の乱れ、汚れていることがあった。	○	△	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	同上				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	同上			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	個別対応に基づき対応している。				食を手づくりしており、野菜は、八百屋からの配達(週1回)を利用して。近所の人から、自家野菜のおすそわけがある。その他の食材は、職員が買って来たり、利用者と一緒に買いに行ったりしている。調査訪問日には、近所の人から柿の差し入れがあり昼食に添えて美味しく頂いていた。米を研いだり、野菜等の下ごしらえや調理、味見、下膳、後片付けなどを一緒にできる様子を見ながら声かけ等して支援している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	できる人には声をかけやってもらっている。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	できる人には声かけ手伝ってもらっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	個別で把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔々つかしいもの等を取り入れている。	◎	旬の食材を使用している。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりとりの工夫等)	◎	個別にケアをしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	馴染みのものを使用している。本人に合ったものを使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事と一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	職員と同じ食卓を囲むことが減っている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	談話室にて状況が見えるよう、孤立しないようにしている。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者様ひとりひとりの健康状態を把握し、その利用者様に合ったものを食べてもらっている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	チェック表や記録を見て分量や情報を見て分かるようにしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	定期的に調理方法やバランスを考え話し合っている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	定期的にハイター消毒をし、消費期限も注意している。				

グループホームしいのみ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	理解し口腔ケアをしっかり行っている。				口腔ケア時に、職員が目視することにとどまっている。異常があったり、本人からの訴えがあったりしたら、家族に連絡し、歯科医につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	×	全員の口腔の健康状態を把握できていない。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	学びたいと思っているが、日常の支援に生かされていない。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	夜は入れ歯洗浄剤につけて手入れを行なっている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	×	その都度清潔に支援しているが、歯科受診まで支援は出来ていない。			△	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きていく意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	個々に合わせたおむつを使用している。				随時、必要性や適切性について話し合っている。家族等からは、おむつ代の負担軽減に関する要望があるようで、職員は、トイレで排泄できるような支援に工夫して、できるだけおむつの使用量を少なくできるよう努力をしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	△	下剤対応で行っている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	記録ノートを見て把握するように努めている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	一人一人尿の量が違うので状態にあった対応をしている。	○		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	職員同士で話し合いを行い、改善に取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	早めの声かけなどで行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういった時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	×	家族様との話し合いはできず、職員が選択している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	その人に合ったものを利用している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分摂取を多めにとっている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	利用者様ひとりひとりに聞いている。	◎		○	週2回、基本的には午前中の中入浴を支援している。固形石鹸を使用する利用者には、石鹸が小さくなってきたら、一緒に買いに行くようにしている。一般家庭の浴槽で深さが深いため、浴槽内に椅子を沈めて湯舟で温まれるよう支援している。湯温や長さの好みは、個別に聞きながら支援している。入浴剤を使用したり、菖蒲湯やみかん湯をしたりして楽しんでいる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	△	室温や温度に配慮して入浴を行っている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	△	ひとりひとりが介助が必要なので、くつろいだ入浴ができていない。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	拒む方に対しては時間を空けて声かけを行っている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前は記録を見たり、バイタルを測ったり、入浴後は水分を取ってもらっている。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録を見て睡眠パターンを把握するようつとめている。				日中は、散歩やドライブに出かけたり、体操をしたりして活動量を増やし安眠につながるよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中はできる限り起きてもらうようにしている。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	日中はリビングや部屋で過ごしてもらっているが、医師の相談支援ができていない。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	個室で休息したり、個々で心身を休める取り組みができるように努めている。				

グループホームしいのみ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	個別の対応を行っている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	同上				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	同上				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	同上				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	同上				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	現在お金を所持している人は居ないが、気分転換の買い物を楽しませている。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	◎	買い物や外食など日常的に外出している。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	買い物は決まっているが、協力が必要なら依頼できる体制にはある。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	所持している人はいないが、希望があれば同伴し、買い物を楽しんでもらっている。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	○	基本的には現金は持ち込まれないようにしているが、入居時その時々に応じて相談している。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	一ヶ月ごとにホームで立て替え、レシートを添付して家族様に送付している。	◎		○	専門医受診は、職員が付き添い支援している。家族から依頼があれば、職員が日用品等の買い物代行をしている。面会時間や場所は、できるだけ家族の要望に応じている。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関は鍵をせず、気軽に入出入りができるように工夫している。	○	○	○	住宅街にある民家改修型のグループホームで、ホーム名と電話、介護相談に応じることが明記した看板を事業所横に設置している
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。）	○	リビングにはトイレテレビがあり、家庭的な雰囲気作りになっている。	○	△	○	民家改修型の事業所で、建物に家庭的な雰囲気があり、テレビ台やチェスト、テーブルや椅子等も一般家庭で使うようなものを揃え、温かさを感じる空間になっている。居間のチェストの上には、利用者が自由に飲めるようなお茶を準備している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日掃除を行って、臭いがあるときは換気を行っている。			○	掃除を行っており、不快な音や臭いは感じなかった。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	お散歩やドライブなど行ったりしている。			△	居間の壁には、時計、カレンダーを掛けている。民家改修型の事業所で、生活感がある空間になっているが、季節感を感じるようなものは少ないように感じた。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	利用者様同士思い思い過ごせている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	使い慣れたものを本人が使用している。	◎		○	テレビやテーブル、タンス、棚などを持ち込んでいる居室がみられた。家族の写真を飾っていた。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかって」をを活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	できることはしてもらっている。			○	建物内は、階段（昇降機設置）や段差などがあるが、利用者が安全に移動できるように、職員がその都度、言葉をかけたり、付き添ったり、見守りしたりしている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	手に届くところに湯呑がある。				調査訪問日には、2階から気になる音がすると職員は、その都度、安全確認を行っていた。トイレは、ピクトグラム表示を付けていた。浴室のドアに温泉マークを付けていた。
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくとも済むように工夫している。（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）	○	日中は出入りすることができるが、夜間は安全のため鍵をかけている。	○	◎	◎	日中は、玄関に鍵をかけていない。職員は、鍵をかけないケアが当たり前と認識し実践していることもあり、特に理解を深めるような機会は持っていない。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施設を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	自由に暮らすため鍵はかけず、安全を確保について話し合いをしている。				
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	△	全員までは把握ができていない、記録ノートを見て把握に努めている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	その都度変化があれば記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	変化があれば職員に報告し、重度化防止に繋げている努力をしている。				

グループホームしいのみ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	個別に応じ支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	主治医と密に連携を図り支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院時はタクシー使用など、必要に応じてご家族様に相談、報告している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時は病院に情報提供および情報交換を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	担当者が密に情報交換を行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	主治医、訪問看護師に相談している。				
		b	看護職もしく訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	協力医療機関や訪問看護にて協力体制にある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	月2回の訪問診療や往診、週1回の訪問看護にて体制を整えている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬剤表を確認し、服薬による変化などがあれば、主治医に報告するようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	薬局で一包化サービス、2人以上の確認をしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	副作用には留意し、変化がないか確認をしている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	変化時には本人、ご家族様との話し合いをおこない、方針を共有している。				入居時に、重度化や終末期の支援について説明を行い、支援の希望を聞き、センター方式のアセスメント様式に記入している。 その後は、状態変化時に、家族、主治医、職員で話し合って方針を共有している。 この一年間では、1名の利用者の看取りを支援した事例がある。 時間を問わず、面会できるよう支援し、電話やSNSで小まめに情報共有を行った。家族からは、「心の準備ができてよかった」と感想があったようだ。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	同上	◎		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	職員が不安にならないように日々話し合い、不安の軽減に努めている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入居時および変化時にはできないことなどの説明を行ない、同意を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	主治医、ご家族様を中心に今後の方向性を共有し、チーム体制を整えている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	不安などは傾聴、受容し不安が少しでもなくなるよう努めている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	予防や対策についての勉強会を定期的に実施している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マニュアルがあり定期的に勉強会を実施している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	医療機関やニュースなどで情報収集し、職員間で共有している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は手洗い、うがいを行っており、玄関には消毒用スプレーを常備している。				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
Ⅱ.家族様との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族様との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	話し合い時や来所持には近況報告を行ない、情報を共有している。				現在、家族がホームの活動に参加するような機会はつくっていない。 毎月、個別に手紙(写真・理念・行事予定・日常の様子等)を家族等に送付している。 全家族とSNSでつながっており、日々の様子や写真、動画を送っている。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	お手紙での行事案内、来所時に声かけし参加を進めている。	○		×		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月写真つきのお手紙を送り、体調や様子をお伝えしている。	◎		◎		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	聞き取りを行ない、本人と家族様がより良い関係を築けるよう努めている。					
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	毎月お手紙で報告している。	×		△		
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	入居時、体調変化時において転倒などのリスクについては説明し理解していただけるよう努めている。					
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	お手紙や電話での近況報告、来所時には積極的に声かけし気軽に話しやすい雰囲気づくりに努めている。			◎		
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時、内容変更の際には重要事項を説明し同意を得ている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	契約に基づき具体的な説明を行った上で退去、直近では事例なし。					
Ⅲ.地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議等に参加していただき、説明を行っている。			△	町内会に加入し、回覧板を利用者と一緒に回している。 年2回、町内会の神社の掃除に職員が参加している。今年の秋祭りには、地域の神輿の訪問があった。隣町内会の行事の誘いがあり、盆踊りやバザーに参加している。バザーでは、いなりずしを買って帰った。散歩時や玄関先で過ごしている時に、近所の人と挨拶を交わしている。また、近所の人から野菜のおすそ分けがある。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	消防訓練への参加、地域行事への参加、近隣公園では挨拶したり会話したりしている。			△		○
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	地域の方の高齢化が進んでいる。					
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	不要になった介護用品や新聞紙などを届けてくださる。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りってもらうなど、定期的なおつきあいをしている。	○	玄関周りの掃除の時は挨拶を行っている。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	機会があれば公民館行事、地域行事に参加している。					
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	スーパー、コンビニ等で買い物をし関係を深めている。					
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	市職員、地域包括支援センター、地域の人などの参加がある。	×		△	会議には、地域住民、地域包括支援センター、毎回ではないが、消防署職員や社会保険労務士(11月)、後見人(9月のみ)が参加している。 家族には、毎月の手紙とSNSで案内するが、参加にはつながっていない。 家族アンケート結果からは、運営推進会議のことを知らない家族が多いことが分かる。 利用者の状況や活動について報告を行っている。 外部評価実施後は、評価結果を抜粋した資料をつくり、目標達成計画とともに報告した。 会議に併せて、内部研修を行い「運営の方針・興味のある地域の方達と一緒に介護勉強会を行う。」取り組みを行っている。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	×	報告できていない。			△		△
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	メンバーの増減はあまりない。日程についてはかなり早めに連絡している。			○		

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	よくどういう意味か聞かれるので、わかりやすく答えられるように、スタッフ全員で考えている				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	利用者様様には、継続した理念を分かりやすく伝えることが難しい時がある	△	△		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	年ごとに研修計画を立て、内、外部研修共に参加できるように案内している。				年2回、職員との面談の機会を持っている。 気になる職員の様子があればその都度話を聞くようにしている。 勤務表は、職員の希望を聞いて作成しており連休が取れるよう配慮をしている。 1時間の休憩を確保している。 事業所の食事を職員が食べる場合、費用負担なく食べられるようにしている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	日々のケアについて訪問看護師や医師による助言を求め職員が周知できるよう実践している。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年2回の人事考査、日々の業務状態を把握し向上心を持って働けるよう声かけし整備なども務めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	外部研修の参加の促しや、勤務希望の調整をし、職員間とのコミュニケーションの場を提供している。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	話しやすい雰囲気にも動いている。必要があればミーティングの場を常に設けている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃されることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	ニュースになる度に話し合っている			○	虐待防止に関する内部研修(運営推進会議内)の「高齢者及び身体拘束について」や委員会後の報告時に学ぶ機会がある。 職員は、不適切なケアを発見した場合は、管理者に報告することと認識をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	時々、反省会を行っている				
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	小さな変化を見逃さないように、アンテナを張っている				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	すべての職員に正しく理解するよう努めている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	月例会議や委員会時など話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施設等の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	主治医などにも助言を求め、家族様を含め話し合う場を作っている。				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	研修の場を設け、制度の理解を設けている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要に応じ相談を行っている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	全ての職員が身に付けたい				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	その時々ヒヤリハットがあれば、その時々で相談、検討を行っている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ヒヤリハット、気付き報告書を作成し、事故防止に努めている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情担当者を決めている				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情対応のマニュアルを作成している				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に退位して、速やかに対策改善、経過報告を話し合っている				

グループホームしいのみ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	いつでも伝えられるよう窓口を設置している。	◎		○	利用者には、日々の中で個別に聞いている。 家族には、来訪時や電話・SNSで「何か意見はないですか」と聞いている。 毎月送付する家族への手紙には、「意見やご要望は遠慮なくご連絡ください」と一筆添えている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	個別に連絡がとれるようにしている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	定期的に現場の様子を見に行き、スタッフとの話し合いを行っている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	話しやすい雰囲気作り、利用者様状態の把握の支援に努めている。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価に取り組んでいる。				外部評価実施後の運営推進会議時に、評価結果を抜粋した資料と目標達成計画を添付して説明を行い、報告している。家族には会議資料を送付している。 モニターをしてもらう取り組みは行っていない。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	月例会議などで今後の課題を明確にし、事業所全体で取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	モニターなどは行っていない。	△	△	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	運営推進会議などで確認しあっていない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	対応マニュアルは作成している				運営推進会議と併せて、年2回(R7年3月と9月)避難訓練を行っている。 災害発生時には、地域の2名の方に協力(誘導や見守り)してもらうことになっている。 さらに、地域の実情を踏まえた体制づくりに取り組んでほしい。 さらに、家族・地域アンケート結果をもとにした取り組みに工夫してほしい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	定期的に消防署からの指導を受けている				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	同上				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域の消防団が機能していない	△	△	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	同上				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	不定期ではあるが、地域住民などに実践報告を行っている				事業所入り口の看板に、車いすを無料貸し出ししていることや介護についての相談ができることを明示している。 地域の人が相談に来ることがあり、内容によって地域包括支援センターなどにつなげている。 まもるくんの家に登録している。 その他は特に取り組んでいない。 事業所の専門性や有用性を活かして取り組みをすすめてほしい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談があれば、いつでも行っている		△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	現状では広さの問題で不可能である				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	前例なし				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	現在は人員不足で尻すぼみである			×	